

備前市事務事業評価シート

(平成24年度事業)

事業の概要				
事業開始年度	昭和49年～		根拠法令・例規等	備前市ごみ置場整備改良事業補助金 交付要綱 等
総合計画	大項目 基本目標	01	安全で快適に暮らせるまちづくり	問 担当課(室) 環境課 合 職・氏名 衛生係長・柴垣桂介 先 電話 64-1821 このシート作成に要した時間 2.0 時間
	中項目 基本施策	01	生活しやすいまちづくり	
	小項目 施策	14	ごみ処理	
事務事業名		03	生活環境改善事業	

事業の目的		
対象 (誰・何に対して)	清潔で快適な暮らしを求める市民	
目的 (何のために)	地区が管理するごみ置場、共同墓地の整備費用の一部を補助する事により、生活環境の改善及び使用者の利便を図る。	
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	ごみ置場を設置することにより、収集効率が向上し、環境美化が図れる。地区管理墓地が整備されれば、利用者の利便が向上する。	

事業の実績			
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	環境衛生改善補助事業	ごみ置場、ごみ置場給水施設の設置に伴う補助金の交付(ごみ置場整備改良事業補助金) 資源回収ステーション設置に伴う補助金の交付(資源回収ステーション設置事業補助金) 共同墓地の水道施設設置、駐車場施設設置及び墓参道整備工事に伴う補助金の交付(地区管理墓地整備補助金)	

決算額	事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
	事業費	直接事業費	千円	7,805	14,278	7,154
	必要人員	人件費	千円	0.05人	0.03人	0.11人
	事業費	費		8,175	14,516	8,109
	国庫支出金	受益者負担	千円			
繰入金	市債					
その他()	一般財源		8,175	14,516	8,109	
受益者負担比率	%				-	

結果指標	結果指標名	単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
	結果指標量	ヶ所	11	6	16
	対前年比	%		54.5%	266.7%
	活動コスト	円	1,319,630	853,260	2,003,920
	単位当たりコスト		119,966	142,210	125,245

事業の成果						
成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成24年度目標値	
ごみ置場整備改良事業におけるごみ置場設置数	目標値(A)	18	18	18	18	
	実績値(B)	11	6	16	到達目標値	
	達成率(B/A)	61.11%	33.33%	88.89%		
成果指標設定の考え方・式や説明						
ごみ置場及び給水施設設置数 到達目標値について、各地区(9地区)で年間2件の設置を目標とする。						

事務事業の評価		該当する項目を から へ く 「コピー」して「貼り付け」してください	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない事業の内容が一部の受益者に偏っている対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である事業開始当初の目的から変化してきている事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 A B C D E 高や普や低い 通やいや 高 低 い い B
	市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	単位当たりコストは前年度と比較して改善している実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地があるコスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい受益者負担率は適正である受益者負担率を見直す余地があるサービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や普や低い 通やいや 高 低 い い C
	目的達成度	成果指標の設定は適切である成果指標の到達目標値は達成できそうである成果指標達成率は前年度と比較して向上している成果指標達成率は80%未満となっている現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない法定事務・内部管理事務であり成果は求めにくい事業について積極的にHPや広報等で情報提供している事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や普や低い 通やいや 高 低 い い B

進行年度(H25年度)の改革改善内容						
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	家庭ごみの収集について、『拾い』(ごみ集積所ではなく、各家庭ごとに収集を行うこと。)が依然として目立つ。環境衛生指導委員と協力し、ごみ集積所設置場所の検討を行い、未整備地区への設置数の増加を図る。資源回収ステーションの設置の推進を図る。					

総合評価		
設置(補助)数は進んでいるものと思われるが、片上、伊里地区において、『拾い』が依然として目立つ。予算にも限りがあるが、要望を踏まえつつ、緊急性のある地区、未整備地区を重点的に整備を進めていき、最終的に『拾い』ゼロを目指す。資源回収ステーションの設置を図りごみの減量化資源化の推進を図る。	総合評価 A B C D E 高や普や低い 通やいや 高 低 い い B	

平成26年度の方向性・取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 『拾い』の集約化及びごみ集積所設置場所の選定など緊急性のある地区、未整備地区の整備を進め、最終的に『拾い』ゼロを目指す。 備前地域全域に資源回収ステーションの設置を図りごみの減量化資源化の推進を図る。 					

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標がある成果指標に留意しな